

〈論文〉

カンザス州教育委員会 1999
——州教育委員会における‘創造 vs 進化’論争——

うのうら ひろし
鶴 浦 裕

一 はじめに

90年代後半のアメリカでは、「創造 vs 進化」論争が多発する場所として州レベルの教育委員会が注目されている。たとえば、テキサス州教育委員会は議論の末、生物進化への言及が少ない生物学教科書にすることを決定している。ネブラスカ州では、生物進化をカリキュラムにふくむ科学教育のガイドラインを決定した州教育委員会にたいし、副検事総長スティーブ・グラスが州公教育長ダグラス・クリステンセンに次のような抗議文書を送った。「生物進化を事実として表現すれば、生徒の信仰の自由の権利を侵害する」と。これを受けた同教育委員会は科学教育のガイドラインの表現を一部訂正した。さらに、キャシー・ウィルモット同教育委員が創造論の導入を提案したが、これは5対3で否決された。またニュー・メキシコでは、州カリキュラム委員会が上申した科学カリキュラムのガイドラインが採択される直前に、キリスト教右派の人物が州教育委員に当選し、彼が提案した生物進化抜きの新ガイドラインが州教育委員会によって採択され、今日それが施行されている。しかし、そのキリスト教右派の委員は再選をはたせず、州教育委員会はガイドラインの改訂を検討しているという。

州教育委員会のレベルの事件ではないがアラバマ州では、キリスト教右派の要請に応じて、州議会が科学分野のすべての教科書の見返りに次のようなラベルを貼る計画を承認した。「生物進化は仮説であり、生物進化にかんする本書の記述はその意味で理解されなければならない」と。

そのほか、カリフォルニア、オハイオ、バージニアなど、キリスト教右派が州教育委員会の多数派を占める州では、同じような事件がいつ起きても不思議ではない状況である。

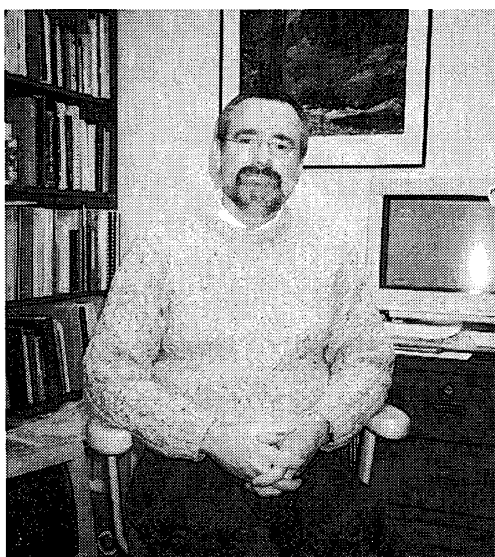
このように90年代後半の「創造 vs 進化」論争が州教育委員会のレベルで頻発しているが、それには理由がある。1987年、最高裁が公立校における「創造科学」教育に違憲判

決を下して以来、アメリカの創造論運動は法廷闘争から末端の現地教育委員会にターゲットを変えた。選挙により教育委員を送り込み、現地教育委員会を牛耳ることで、生物進化の教育を阻止しようとしたのである。じっさい 90 年代前半には、生物進化の教育を弱め、創造論の導入を検討する現地教育委員会が多数あらわれた。そこで州教育委員会で科学教育のガイドラインをつくり、現地教育委員会の「暴走」をくい止めようとする動きが起こり、それに反対する動きとの衝突が各州で見られるようになった。つまり、州教育委員会が「創造 vs 進化」論争の最前線になったのである。

1999 年 8 月、カンザス州教育委員会は「生物進化」を州が実施する標準テストの問題からはずすことを決めた。ここではその決定を例にあげて、州レベルの論争がどのように展開していくのかを詳しく報告したい。

二 事件の展開

事件の発端は 1999 年初頭にさかのぼる。科学基準委員会が新たに作成した「科学カリキュラム基準」案をカンザス州教育委員会に上申した。科学基準委員会はもともと同教育委員会によって設立され、州公教育長アンディー・トンプキンスが任命した、スティーブ・ケイス、メアリー・ブライズをはじめとする科学の教員や科学者など 27 名の委員からなる。カンザス州の公立校の生徒が学ぶ科学の内容や州の標準テストの範囲などを決め、つまり「科学カリキュラム基準」を決めることが、その責務であった。



科学基準委員スティーブ・ケイス博士

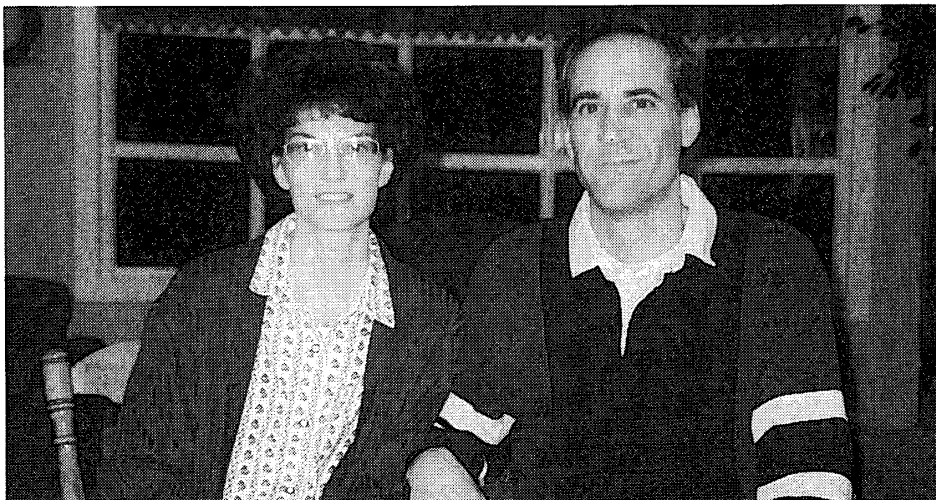
上申された「基準」案は、ナショナル・アカデミー・オブ・サイエンス National

Academy of Science のガイドライン（1998 年）を下地としてつくられた。同アカデミーの方針に沿って、そこには、生物進化論は生物学における「統一的概念」であり、たとえ信仰に反するものであっても、生徒はそれを学ばなければならないという一節があった。このような厳しい表現が盛り込まれたのは、もちろん、州内の末端の現地教育委員会が勝手に生物進化をカリキュラムからはずそうとする動きを牽制するためであった。これこそが「基準」をつくり直す目的だったのである。なぜなら、旧「基準」は生物進化を必修項目に数えていなかったからである。

上申を受けたカンザス州教育委員会は 1999 年 1 月後半、「基準」採択に向けて参考意見を集めるため、州内各地でヒアリングを開いている。予想通り、毎回数百人が会場に押し寄せ、賛否両論を展開し、ときには「基準」案に反対する抗議行動も起きた。一方では、科学者や科学教員が「生物進化論がなければ生物学そのものを理解できない」と主張し、「基準」案の採択を要求した。他方、各地の創造論者やその支持者たちは「生物進化論は人間を讃える世俗的ヒューマニズムという一種の宗教である」から、「生物進化論と創造論を対等に教え」た上で「生徒にどちらかを選ばせるべきだ」と主張し、「基準」案の否決を要求した。

議論の高まりに呼応して、両サイドはそれぞれ賛成・反対のための市民グループをつくり始めた。進化論側は、「基準」の作成メンバーを中心に「科学のためのカンザス市民 Kansas Citizens for Science」という州レベルのグループを結成した。

他方、創造論側では州レベルのグループが結成されることなく、末端の学区や大学内で小規模のグループが誕生している。たとえば、カンザス・シティーから車で 30 分のところにあるローレンスという町では、「ポッシュ POSH」（Parents for Objective Science



エレン・バーバー、ジョエル・バーバー夫妻

and History, ちなみに豪華な、スマートなという意味の posh という英単語がある) という市民グループができた。子どもの通う幼稚園の生物進化教育に反対して、エレン・バーバー、ジョエル・バーバー夫妻がその幼稚園の父母を中心に約 40 名で結成した。ローレンス教育委員会に「授業時間均等化 equal time」を書面で要求し、自分たちで「適切な科学教育の基準」を提示し、またローレンスの教育委員選挙では、生物進化を事実として教えることに反対する候補者を支持するなど、積極的に活動している。設立者のエレン・バーバーは新聞インタビューに答えて、「生物進化論には十分な証拠がない。しかも家庭で教えていること（創造論）とはちがう、私たちの信仰とはちがう」と述べている。

またカンザス大学の一部の教員を中心に、「フラット FLAT」(Famillies for Learning Accurate Theories) という組織ができた。創設者ジャック・デイビッドソン名誉教授（物理学）は新聞インタビューに答えて、「生物進化論を非難するだけでは足りない。聖書には地球がたいらだと書かれている」と述べている。

カンザス州教育委員会による「科学カリキュラム基準」案の検討について述べる前に、同州教育委員会そのものについて少し説明しておく。知事が州教育委員を任命するカリフォルニア州などとはちがい、カンザス州教育委員は大統領選挙および中間選挙で半数ずつ改選される公選制であり、その任期は 4 年である。10 名の委員が州立大学をのぞき 304 の学区、職業学校、カレッジ、その他の公立校を統括し、それらの運営、教育の基本的方針を決定する。しかもカリキュラムや標準テストの内容についての決定は、州知事や州議会の承認を必要としない。

1996 年以来、カンザス州教育委員会では保守派と穏健派のあいだに 5 対 5 の勢力均衡が成立し、どちらも数の力に訴えることができず、互いに牽制することで何も決められない状態が続いていた。「創造 vs 進化」論争にとっても、事件の起こりにくい状態が続いていたのである。

ここで 1999～2000 年における同教育委員会の顔ぶれ、「基準」案に対する態度をあげておく。

保守派（共和党右派とキリスト教保守）

スティーブ・エイブラムズ（アーカンソー・シティー，一〇区，獣医）

「基準」案の生物進化論の位置づけに反対。事実ではない。

リンダ・ホロウェイ（ショーニー，二区，当時の委員長）

スコット・ヒル（アビリオン，六区）

「基準」案に賛成できない。生物進化論へ固執しているから。

ジョン・ベイコン（オレイズ，三区）

「基準」案に反対。起源にかんする他の理論もふくめるべきだ。

メアリー・ダグラス・ブラウン（ウィチタ，八区）

妥協が必要だ。地元はこの対立を持ち込みたくないから。

穏健派（共和党の穏健派および民主党）

ソニー・ランドル（シラキュース，五区）

「基準」案は検討にあたいする。

ジャネット・ウォー（カンザス・シティー，一区，ビデオ）

この問題は過去の判決で解決済みだと思っていた。

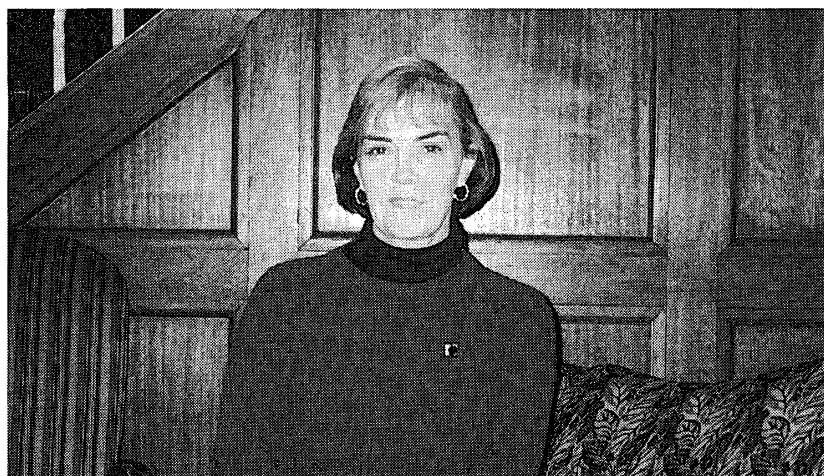
ビル・ワグノン（トプカ，四区）

バル・デフィーバー（インディペンデンス，九区）

生物進化論は検証可能な理論。

ハロルド・ボス（ハイブン，七区）

政治闘争を避けるために，妥協が必要かもしれない。



リンダ・ホロウェイ委員

5月12日，カンザス州教育委員会は「科学カリキュラム基準」案を検討した。同案を作成した科学基準委員会の代表2名（リンダ・ルーツほか）を招いて，その審議に2時間かけた。しかし同教育委員会が審議した「基準」案はそれだけではなかった。審議の途中で，同教育委員の一人スティーブ・エイブラムズ（保守派）がもう一つの「科学カリキュラム基準」案を他の委員に配布したのである。同教育委員会はこの「もう一つの基準」案についても審議したのである。



ジャネット・ウォー委員

「もう一つの基準」案には雛形があった。それを作成したのは、中部アメリカ創造科学協会 Creation Science Association for Mid-America（ミズーリ州）の会長トム・ウィリス（ブルーベリー農場の経営者）とそのグループである。そこには創造論への支持と、生物進化論への疑いを示す、次のような表現が盛り込まれている。

他の科学理論とちがいで、進化は反復できない、したがって進化論は検証できない。進化論は過去のできごとにかんする仮定にもとづく。だからまちがっているかもしれない……。

信頼できる証言があって、初めて歴史として認められる。ちょうど裁判における証言のように。もし聖書という信頼できる証言に基づいて地球の歴史を見ると、生物進化はないことになる……。

両基準案を審議した結果、全体としての見解をまとめることができないという理由で、同教育委員会委員長リンダ・ホロウェイは6月に予定されていた基準案の採否決定を延期する判断を下した。そのかわり、同教育委員会内に科学カリキュラムを検討する小委員会を設置し、対立が解消されるような「科学カリキュラムの基準」を新たに作成することにした。

しかし小委員会はスティーブ・エイブラムズ、スコット・ヒル、ハロルド・ボスで構成された。保守派2名、穏健派1名の顔ぶれである。予想通り、できあがった新「基準」案は、生物進化論教育を徹底しようとする最初の「基準」案の内容を骨抜きにするものだった。そこには、確かに「マイクロ・エボリューションを認める」など妥協をはかろうとする意

図もふくまれていた。しかし「マクロ・エボリューションやビッグ・バン理論を標準テストの範囲としない」あるいは「生物進化を教えるか否かは現地の教育委員会の決定にゆだねる」という内容は、やはり、創造論側の要求を反映したものだと言わなければならない。つまり、試験に出題されなければ生徒たちも生物進化を勉強しないだろうし、決定しだいで生物進化を教えない学区もあらわれることになるのだから。

8月11日、カンザス州教育委員会はこの小委員会が作成した「もう一つの基準」案を採択した。ハロルド・ボスが保守派に加わったため、6対4の評決で決まった。科学基準委員会の「基準」案は否決され、採択された「もう一つの基準」案は2000～2001年度から施行されることになった。

この決定はさまざまな反応を引き起こした。

たとえばマスコミでは、この決定が全国的に報道されている。『ニューヨーク・タイムズ』、『ワシントン・ポスト』、『ボストン・グローブ』、『エコノミスト』などの一流紙誌、ロンドンの『タイムズ』や日本の『読売新聞』、『朝日新聞』、『毎日新聞』、『日本経済新聞』などが報道した。またアメリカの三大ネットワークだけでなくBBCやNHKも報道している。

テレビのトーク番組や紙誌のカートゥーンには、この決定を笑い話のネタにするものもあった。カンザス州の創造論者を「ネアンデルタール人」と呼んだり、同州には「トウモロコシ畑と同じくらいたくさん生物進化論論争がある」というコメントや、「ようこそカンザスへ。ここは平地、地球は平らだから」という道路標識のカートゥーンなど、同州を軽蔑する内容のものがメディアにのせられたのである。

学界からの非難もあった。National Academy of ScienceとAmerican Chemical Societyの2学会が公式の批判声明を出している。また全国科学教育センター National Center for Science Educationのモリーン・マツムラは「本当の犠牲者はカンザス州の子どもたちだ」と述べている。ただし、サンディエゴ郊外の創造研究所 Institute for Creation Researchのジョン・モリス所長はこの決定を「優れた学生、思想家、科学者を生み出すための大きな一歩だ」と評価した。

カンザス州内では、この決定の前から、ビル・グレイブス知事（共和党穏健派）が「それは適切ではない……。またそれが採択されれば、カンザス州からビジネス投資が遠がるかもしれない」と新聞インタビューに答え、「もう一つの基準」案に反対していた。またウィチタ州立大学のドナルド・ベッグス学長を中心に公立大学6校の学長が同州教育委員会に「もう一つの基準」案に反対する請願書を出していた。ベッグス学長は新聞インタビューに答えて、「もう一つの基準はカンザス州を100年前にもどすだろう……。科

学の学力は他州の生徒より悪くなるだろう……。カンザス州の公立校では科学の教員不足が問題になるだろう」と述べた。

地元紙では賛否両論の論争が起きている。カンザス大学自然史博物館館長レオナード・クリシュタルカの「創造科学はインチキだ」と述べたことがきっかけとなり、同大学内にFLATという創造論支持グループが結成された。クリシュタルカのコメントに対し、FLATの中心人物たちが応戦した。同大物理学教授エイドリアン・メロット（FLATのスポークスマン）は「不正確な、気まぐれな、反聖書的な思想教育に反対する」と述べ、公教育に誠実、完璧、正確を求めているだけだと説明した。またFLATの会長ジャック・デイビッドソンは「カンザス大学の一部の人たちは、見解を異にする人をバカにしているようだ。しかし教育委員会は父母をバカにすべきではない。バカにされれば、人は怒りをおぼえる」と述べている。

そしてACLUのカンザス支部は、生物進化論を教えない現地の学区があらわれることを見越して、304の学区の教育長に1987年の最高裁決定（「公立校における創造科学教育は違憲であるという判決」）を書面で通知した。つまり、もし創造科学を公立校に導入すれば裁判に訴えると暗に脅したのである。

こうした一連の反応を見ると、確かにスコープス裁判のときと変わらないという印象を禁じえない。

三 今 後

いずれにしてもカンザス州教育委員会は創造論教育を公教育に持ち込むと決めたわけではない。同教育委員会が決定したことは、生物進化を州が実施する標準テストの範囲からはずすこと、生物進化を教えるか否かは現地の教育委員会の決定にゆだねることだけである。

しかもこの決定が確実に実施されていくかどうかはまだわからない。というのは2000年の大統領選挙と同時に、州教育委員の半数（偶数番号の選挙区選出の委員）が改選されるからである。カンザス州は共和党の地盤であるため、じっさいには11月をまたずに8月最初の共和党のプライマリー選挙において、新しい顔ぶれが事実上決まることになる。その結果、今回の決定を支持するグループが継続してマジョリティーを握れるだろうか。今回の決定が影響力を持つかどうかを判断するには、この結果を待たなければならない。

参考文献

The Kansas City Star (日付順)

Beem, Kate, "Evolution an Issue in School Board Race That Some Things Never Change," 3 April 1999, p. A1.

"Next Conflict for Board of Education: Evolution Consideration of Science Standard Looms for Kansas," 12 April 1999, p. A1.

"At Odds over Education Kansas Reflects Nation's Struggle over School Control," 9 May 1999, p. 1A.

"Science Divides State Boe This Week, The Ideologically Split Kansas Board of Education Will Take up the Issue of Creationism vs Evolution," 10 May 1999, p. A1.

"No Decision on Science Standards Kansas School Board Remains Divided on Question of Creation vs Evolution," 13 May 1999, p. B1.

Manning, Carl, "School Board at Odds over Evolution Vote on Whether to Include Creation Science in State Curriculum Standards Will Be Postponed," 13 May 1999, p. 11A.

Beem, Kate, "Debate over Evolution Plays Out in Classrooms Frisby Won't Compromise," 20 May 1999, p. A1.

"Evolution Debate Persists in Schools States Struggle to Establish Policies," 14 June 1999, p. A1.

Carroll, Diane, "Evolution Question Left to Schools Kansas Board of Education Approves Modified Science Standards by 6-4 Vote," 12 August 1999, p. A1.

Winn, Stephen, "Evolution Blunder Opens Kansas to Ridicule," 13 August 1999, p. B6.

Beem, Kate, "Reaction to Kansas Evolution Decision Vocal, Varied," 28 August 1999, p. A1.

Scott, Laura, "Science Education Needs Community Support Here," 1 September 1999, p. 2.

Sjerven, Jay, "Evolution Is Only One Fundamentalist Target," 1 September 1999, p. 2.

Hendricks, Mike, "Kansas, the Land of the Fleet," 1 September 1999, p. B1.

The Wichita Eagle (日付順)

Rothschild, Scott, "Graves Blasts Science Standards Governor, University Presidents and Others Say Plan That Omits Evolution Would Hurt Kansas Students," 7 August 1999, p. 1A.

Tobias, Suzanne Perez, "Standard's Effects Could Evolve Slowly the Effect on What Will Be Taught in Classrooms Is Subject of Debate," 12 August 1999, p. 1A.

"Evolution Debate Puts Kansas in Spotlight Some Fear Recent Board Decision Could Hurt the State's Reputation; Others Say Media Are Painting an Unfair Picture of Kansas," 13 August 1999, p. 1A.

NHK イレブン・ニュース「カンザス州教育委員会」, 1999年10月23日放送.

大塚隆一「進化論, ビッグバン削除」, 『読売新聞』朝刊, 1999年8月13日, p. 6.

朝日新聞「神に従う? 教育課程」, 『朝日新聞』夕刊, 1999年8月13日, p. 10.

日本経済新聞「鐘」、『日本経済新聞』夕刊，1999年9月24日，p. 1.

鵜浦 裕 「創造論の洪水におぼれるか，進化論」，東京大学出版会『UP』，第239号，1992年9月，pp. 1-5.

「州立サンフランシスコ大学ケニヨン事件——宗教教育と学問の自由——」，札幌大学紀要『札幌大学総合論叢』，第4号，1997年10月，pp. 33-58.

「創造か進化か——アメリカの小さな町の教育論争，ヴィスタ教育委員会1992-94——」，札幌大学文化学部紀要『比較文化論叢』，第1号，1998年3月，pp. 117-174.

「ビル・ホーニッグ——アメリカ‘創造 vs 進化’論争における第2のスコープス？——」，札幌大学紀要『札幌大学総合論叢』，第5号，1998年3月，pp. 1-28.

「創造科学大学院プログラム州認可取り消し事件——カリフォルニア州教育局 vs 創造研究所1988-92——」，札幌大学経済学会『経済と経営』，第28巻，第4号，1998年3月，pp. 41-78.

「アメリカの創造論運動小史——1920年代～1980年代——」，札幌大学文化学部紀要『比較文化論叢』，第2号，1998年7月，pp. 189-214.

『進化論を拒む人々——現代カリフォルニアの創造論運動——』，勁草書房，1998年11月.

「進化論に挑む創造論 米での自然史博物館建設に思う」，『読売新聞』夕刊，1999年7月1日，p. 15 (文化欄).

追記 資料収集については札幌大学図書館のスタッフからご協力いただいた。またカンザス州現地調査（2000年2月16日～19日）のおりには、『カンザス・シティー・スター』紙記者ケイト・ビーム氏をはじめとする現地の方々の協力を得た。記して感謝したい。



『カンザス・シティー・スター』の記者ケイト・ビーム氏